

令和4年度 助産師職能委員会書面交流会 結果（概要）

令和4年度助産師職能委員会交流会は新型コロナウイルス感染症の感染拡大を考慮し、書面開催となりました。テーマを『母子のための地域包括ケア病棟とCLoCMiPレベルⅢ申請・更新現状と課題を共有しよう』とし、紙上での設問にご回答いただき、各支部より11件の回答が得られました。

1. 母子のための地域包括ケア病棟の現状および推進に向けての課題

1) 院内助産・助産師外来

(1) 院内助産

院内助産をおこなっていると回答したのは1支部のみと少ない状況でした。人員不足や混合化により中断・中止となっている現状もありました。加えて、実施にあたっては助産師の高い実践能力が必要であり、スキルアップが欠かせないことも課題となっていました。

一方、「院内助産」については「助産」という表現が入っているために「分娩」（医師の立ち会いのない助産師が主体の分娩）に着目したものと捉えられがちであり、回答からもその現状がうかがえました。実際の定義はローリスク・ハイリスク対象に限らず「院内における妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない助産ケアシステム」と言い換えられるものです。多くの施設の実情は「院内助産」に近い状況ではと思うため、まずは用語の周知を進めていくことが現状の把握と推進に向けて、取り組むべき事項と考えられました。

(2) 助産師外来

助産師外来は多くの支部で実践されていました。特に産褥期の対応も充実してきていることがわかりました。推進にあたっては「人材確保・人員配置」（可能であればもっと関わりたい）や「エコー技術に関わる技術の向上」（自律したエコー技術を向上したい）等に応える・解決につながる支援が求められていました。

2) 産科関連病棟におけるユニットマネジメント

産科混合病棟が多く、助産師は助産ケアだけではなく、他科患者への看護も担わないといけない現状であることがわかりました。妊産褥婦に対する切れ目のない支援が求められる中で、産科の母子にも十分なケアを提供しにくい現状がありました。母子の安全の確保のため、各施設の課題を抽出し、ユニットマネジメントの推進と十分なケアを提供できるよう解決策を検討していく必要があることがわかりました。

3) 医療機関における産後ケア事業

調査実施した地区において、産後ケア事業を行っていた施設は3施設でしたが、現在行っているのは1施設のみで、不足していることがわかりました。

産後ケアを行っていない施設では、乳房ケアや育児指導を2週間健診で産後のフォローを行っています。母子は産後1か月健診を最後に産科（医療機関）を離れることとなります。母親が孤立せず、気軽に育児相談でき、身体面の回復、精神面のサポートが必要です。現状のケアにプラスして産後ケアで何を担っていくか、産後ケア利用者のニーズを把握した上で、産後ケア事業に取り組むことが大切であると考えられました。また、産後ケアの施設を増やすために公的支援、人員確保、助産師のスキルアップが課題となっていることが把握できました。

4) 地域連携

全ての支部で医療機関と市町村（主に保健師）間での地域連携がなされていました。具体的には定期的な合同会議やイーはと一ぶの利用、必要に応じた個別対応でした。

今後の課題としては、コロナ禍による会議開催・継続の難しさや円滑な連携のための電子化・オンライン化等連携環境の整備、若年妊婦や連携の必要な対象者の増加への対応などが挙げられていました。

また、支援が必要な対象者の連携だけではなく、産後ケア等、退院後地域で行われる支援に関する情報の共有についての要望も記載されていました。

2. CLoCMiP レベルⅢ申請・更新状況の現状と認証推進に向けての課題

(1) 申請状況

ハイリスクを取り扱う施設では自然分娩件数の減少があり、中小規模施設では分娩取り扱い中止や助産師が他部署に配属されるなどの理由で申請が難しい現状があることがわかりました。また施設の規模にかかわらず、アドバンス助産師資格取得による“メリット”を感じないという声が多く、アドバンス助産師資格取得による利点を広く周知していく必要があると考えられました。

自律した助産師の育成のためにも、施設をあげてアドバンス助産師の活用、資格取得に対する支援（学会、研修会参加の時間確保、資格取得にかかる費用の補助など）が重要とも考えました。

(2) 更新状況

今後に向けての課題は、新規取得（申請）と同様でした。更新のための要件を満たすために、施設間での出向システムの利用や周産期の現場から離れている助産師への広報および支援などが期待されていることがわかりました。

3. 支部職能委員の活動を行うにあたって、あると助かる支援や日頃感じていること等

支部職能委員の身体的、心理的負担軽減のためにも、腹を割って日頃の思いを共有しあう場が必要であることがわかりました。また、その共有した結果をそれぞれの組織の看護管理者に伝え、職能委員の活動に協力的な施設、看護部を増やしていく必要があると考えられました。

今回、ご回答いただきました内容の概要は以上の通りです。さらに具体的な回答内容については、2月に開催予定の支部助産師職能委員交流会において支部助産師職能委員の皆様にお伝えしていくことといたします。

今回の書面開催にあたり、ご協力いただきましたこと、心より感謝申し上げます。

助産師職能委員会

委員長

蛸崎奈津子

大谷 良子

高橋真紀子

阿部 志保

種子はるみ

杉内 哲子